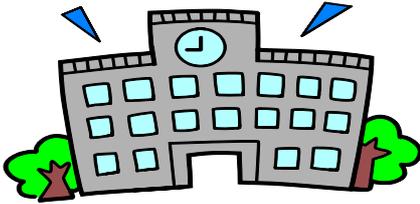


生徒の活動に働きかける 「ほっとルーム」の展開

～「ほっとルーム」を拠点としたピア・サポーターの育成を通して～

特別研修員 中村 泰彦



- ・ 勉強がわからない
- ・ 友達関係がうまくいかない
- ・ 部活動やめちゃいたいなあ
- ・ なんとなく学校いきたくないなあ

生徒は学校生活でいろいろな悩みがあります。

悩みやつまづきはだれにでもある！ そんなときに必要なのは

悩みを真剣に聴いてくれる友達
悩みやつまづきに気付いてくれる先生
温かく受け入れてくれるクラス・学校

このような学校の風土をつくるために「ほっとルーム」を機能させます。

「ほっとルーム」担当が生徒と生徒、生徒と教師、生徒と学校をつなぐコーディネーターとして次のような取り組みを行いました。

教え合う学習活動（学習への働きかけ）

生徒同士が教え合う、学び合う場所と時間を設定しました。

- ・ 時間 昼休み（13：15～13：35）
- ・ 場所 ほっとルーム

苦手な教科を友達に教わる。先生にはちょっと聞きづらいことでも友達なら...

勉強ってひとりでやるよりも友達とやったほうが楽しい！



ピア・サポートトレーニングを取り入れた体験活動 (生活への働きかけ)

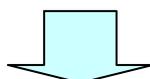
高原学校など学校行事を行う際に

ピア・サポートトレーニング

を取り入れてみたらいかがでしょうか



・人の話しに耳を傾ける、助け合う気持ちをつくるトレーニングをしてから体験する。



生徒と生徒・生徒と教師の関係をより深めることができます。
助け合う活動をより深く生徒の心に印象づけます。

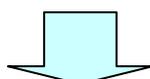
人間関係作りに着目した部活動の取り組み (部活動への働きかけ)



部活動は毎日行われます。毎日接するからこそ
部員同士、顧問と部員の

良好な人間関係 が大切です。

- ・上級生と下級生、同級生同士話しをする場を定期的に設定してみる
- ・部活ノート等を利用してこまめに部員の気持ちを把握する



温かい雰囲気の中での練習は技術力の向上を促進させます。
気持ちの変化を早くつかめば事前に人間関係のトラブルを防ぐことができます。

支援者は、 ~ の3つの取り組みを次のようなプロセスで行いました。



「ほっとルーム」を拠点に学校にたくさんの「ほっ」とできるスペースをつくる
不登校の予防につながるのではないのでしょうか。